

現今世相の上に著しく「焦燥の氣みなぎり」、「動もすれば根底なき大言壯語を喜ぶ風」がみられる時、同研究所が靜かに古典の精神を學び、篤厚の氣運を醸成せしむる事を意圖して本書を刊行せられた事は、學界、又廣くは國民と共に喜ぶべき事柄であらう。(東京、國民精神文化研究所發行、洋裝菊判、四〇一頁、非賣品(内藤)

○高野山文書 第五卷(金剛三昧院文書)

昭和七年四月、弘法大師一千百年忌遠忌を記念せむがために眞言宗曠古の事業として企劃せられたものは、今その完成を遂げつゝある眞言宗全書の刊行と、他は高野山史編纂所の開設であり、茫々千百歳に餘る一山興亡史の撰述にあつた。爾來四星霜、今その事業の基礎的工作として一山史料のあらゆる視野からの集大成を見るに至つた事は學界近時の鴻學として、その不撓の聖業に心からなる慶祝の意を表したい。蒐むる所、十八萬餘通の中、約六千餘通を厳選の上、一山各院文書八卷、舊寺領内文書四卷に種別せられ、全拾貳卷を算する浩瀚なものである。

もとより今次の刊行は叢の正續齊簡集に亞がむとせるものであり其を補はむとするものであることいふまでもない。その文書の配列に於て叢の大日本古文書に則りて「家わけ」別を採用せられる等、その内容體裁のすべてに於て前者に進じられたるは誠に賢明の策といふべく研究に利便せらるゝ所が甚だ多い。叢の大日本古文書家わけ第一」に收められたるものが主として御影堂寶庫を中

心とせるものなるに反し、廣く一山各院の祕庫はもとより、普く全國に誇る舊高野領内にまでその探訪の手を差し延べ、以て資料蒐集の完璧を期せられた所に今次刊行の重大なる意義が考へられていゝであらう。

初回到配本せられた金剛三昧院文書には同院所管に係る御經藏文書、六卷書文書、鼻長藏文書、校倉文書等、計三百八十二通が収録されてゐる。いふまでもなく當院はその草創の當初より源家は特別の關係を有ち、秋田城介時顯自筆寄進狀を初め足利歴代將軍の御教書類等その兩者の關聯を示すもの多く、その所領、筑前粥田庄、播磨在田上庄、紀伊由良庄、播津小眞上庄等その寺領庄園に關するもの又多い。而も當院は夙に勸學院として一學侶方の柱石としてその重きをなし、證道上人、興山上人應其等一山中興祖師の資料等又豊かである。不幸屢々の祝融に禍されてその原本の大半を失へるは誠に遺憾といふべきも今縱かに殘る原本に手寫を交へて本書の上梓を見たことは慶ばしい。とまれ、報はれざるこの種事業の前途こそ誠に洋々たるものがある。折角龜勉その完成の完からむことを切望する次第である。(菊版四六一頁、圖版四、高野山金剛峯寺内高野山史編纂所發行、價各冊、五圓宛)(續中)

○日本史學史

伊豆公 夫著

「日本史學史」それは現今我國史學の領域に於て、確かに注目す